

増幸産業(株) (埼玉) 健康経営優良法人 ブライト500に2年連続選出

摩砕機「スーパーマスコロイダー」をはじめ、大豆脱皮装置、大豆超微粒粉末製造機などで知られる増幸産業(株) (埼玉県/増田幸也社長)が昨年度に引き続き、「健康経営優良法人ブライト500」に選出された。



認定証

健康経営への取り組み 2年連続で評価

増幸産業(株)が選出された「健康経営優良法人認定制度」とは、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから社会的な評価を受けることができる環境を整備することを目的に、日本健康会議が認定する顕彰制度。経済産業省が健康経営の普及促進に向けて、健康・医療新産業協議会健康投資ワーキンググループにおいて設計している。

大規模の企業等を対象とした「大規模法人部門」と、中小企業の企業等を対象とした「中小規模法人部門」の2つの部門を設けている。「健康経営優良法人」に認定されると、「健康経営優良法人」ロゴマークの使用が可能となるほか、自治体や金融機関においてさまざまなインセンティブが受けられる。

その中で、中小規模法人部門の取り組みが優良であると認められた上位500社に「ブライト500」の冠が付加される。

今年度は、大規模法人部門には2988法人、中小規模部門には1万6733法人が健康経営優良法人に認定されている。そのうち中小規模部門のブライト500に申請した企業3429社中、増幸産業(株)は51/100位以内に位置し、製造業では797社中、1/50位以内に入っていると評価された。

増幸産業(株)の13の取り組み

増幸産業(株)では具体的に次のような取り組みを行っている。

① 個人目標/社員全員が健康経営目標をたて、達成に向けてPDCA(プラン↓ドゥ↓チェック↓アクション)を回している。毎月の上長との面談にて進捗状況の報告をすることで、経営陣も把握できる。

② 保健師面談/年に1~2回、約20分の保健師面談を行っている。目的は、病気の早期発見、早期対応。また仕事の状況や家庭での過ごし方などを話すことで、心の状態や置かれている職場環境の良し悪しを専門家により判断していただく機会となっている。健康診断の判定のみが目的ではない。担当の保健師さんが社員とのコミュニケーションを継続している事で、何かあった時により適切な判断と対応をしていただける。

③ 健康診断(全員対象)
④ ストレスチェック(全員対象)/国の方針(現在当社規模の企業では任意となっているが、国は近い将来すべての企業に対して義務化する方向で進んでいる)

⑤ 人間ドック・脳ドック(40歳以上全員対象)費用全額補助/健康保険組合からの補助金以外に、会社が費用を負担し全額補助としている

⑥ インフルエンザ等のワクチン接種費用全額補助/右記と同様、数年前より、扶養家族分も会社が負担

⑦ 歯科検診開始(2年に1回)/新たな試みとして開始(歯周病のリスク)

⑧ 福利厚生充実/グリコ・コーヒー・ゆとりぶ加入・プレミアムフライデー・時間単位の有給取得など福利厚生を充実することで社員満足を目指す

⑨ 有給休暇を取りやすい環境作り

⑩ ウォーキング大会の開催/体力作り・社員同士のコミュニケーション
⑪ 毎月の個人面談/少しでも言いやすい環境作り

⑫ 毎朝のラジオ体操/地味な活動に感じるが、これを長期間継続している

⑬ 社労士と産業医によるサポートの充実/社員に何か問題があった時に、社労士様と産業医様のコラボレーションにより、良い解決方法を見出してくれる体制

【効果の確認】

① 保健師面談後のフィードバックによるサポート

② ストレスチェックの結果による改善

③ 健康診断の受診率が2023年以降100%を維持

④ 健康アンケートの参加率が2024年は75%まで上昇した

⑤ 1日に何らかの運動をしている人の割合が年々増加(2024年(73%))

⑥ 歯科検診・理化学療法士によるパーソナルトレーニングなど新しい試みにチャレンジ

取り組みが評価されて嬉しく思う

今回の顕彰に対して、増田幸也社長は、「年々、応募者数も増え、ハードルが高くなる中で2年連続上位500社に選ばれたのは名誉なことだと感じている。健康な状態を確認しつつ、さらに健康値をあげる努力をすることが大切。今年は、個々人の体力測定を行い、現状把握をして、各自が目標値を決めて活動することになった。今後も取り組みを続けていく」と語っている。